

使徒言行録 19 章 21-40 節

「手で造ったものは神ではない」

「ただならぬ騒動」が起こります。デメトリオという銀細工師が発端でした。彼は他の銀細工職人や関係者たちの、元締めのような存在だったようです。彼らの仕事は、アルテミスの神殿の模型を銀で造るというものでした。エフェソにはアルテミス神殿があり、エフェソの町の誇りであり、心の拠り所であったのでしょう。デメトリオらは、この神殿に参拝する人向けに、小さな女神像を入れた神殿の模型を銀で造って販売していました。人々はそれを購入して、神殿に奉納したようです。しかし、その利益があきらかに落ちてきたので、彼らはその原因がパウロにあると思い、町中が混乱してしまいます。

パウロは、26節「手で造ったものなどは神ではない」と人々に教えました。手で造ったものとは、「偶像」です。人々の欲望や願いの数だけ、偶像の神が生み出されることとなります。しかし、そのようにして、人の手によって造られた偶像は、無力で、命のない、虚しいものです。エフェソの人々にパウロが教えたことは、「この世界をお造りになり、わたしたちに命を与え、すべてを支配し、導いておられる、生ける唯一の、真の神がおられる」ということです。主イエスの救いを信じ、真の神を知ったエフェソの人々は、もう偶像に頼らなくて良くなったのです。これが、福音の力であり、神の恵みによって新しく変えられた人々の姿なのです。しかし一方、デメトリオは売り上げが落ちてしまい、パウロを何とかしたいと思い仲間や人々を煽動しました。人々にとって、「女神の御威光が失われる」とは、自分たちの町の誇りが汚されたのと一緒です。そうして町中が混乱してしまいました。町の人々はパウロの同行者のガイオとアリスタルコを捕らえ、一団となって野外劇場へなだれ込んだ、とあります。パウロは群衆の中に入っていきこうとしましたが、この騒動の時、パウロは何もできなかったのです。この混乱した群衆を、町の書記官がなだめた、というのが今日の話の流れです。

今日の箇所では描かれているのは、エフェソでキリストの福音を知り、神のご支配のもとに生き始めた人々がいる一方で、真の神のご支配を知らずに生きている人々の姿です。自分の思いや、望みや、欲望を一番とするところで、人は偶像の神を造りだします。そして、神を拝んでいるように見せながら、実は自分自身を神とし、自分の思いに服従しているのです。しかし、キリストを信じたエフェソの人々が、魔術から解放され、魔術の本を焼き捨て、神殿の模型を買わなくなったように、わたしたちも、自分の思いやこだわり、様々な世の支配、欲望から解放され、生活が変化していくのです。福音を語り続け、福音に生き続けることが、神を証しし、周囲を変える力にもなっていくのです。

わたしたちも、神の恵みに生きる者として、神のご支配に入れられている者として、み言葉に聞き続けて歩む中で、生活が具体的に変わられていきます。この日本も、多くの神々を拝み、さまざまな風習や迷信に支配されている点で、エフェソとよく似ているかも知れません。だからこそ、私たちはこの「エクレーシア」という教会で、神さまに呼び集められ、真の神を礼拝し、神のご支配の中を生きていくのです。今回のパウロのように、もし騒動が起こっても、私たちが何も出来ないかも知れません。しかし、パウロが聖霊の導きによって歩む道を示されたように、すべてを支配し、共にいて下さる神ご自身が、聖霊によって導きを与え、歩む道を示し、必ず守って下さることを、わたしたちは信じたいと願います。